令和５年度（２０２３年度）第２回伊丹市立総合教育センター運営協議会　議事録

日　時　令和６年（２０２４年）１月２９日（月）
場　所　伊丹市立総合教育センター　２階　講座室
委　員　深野　康久〈会長〉、早﨑　潤〈副会長〉、吉田　典子委員、花光　潤一委員
　　村上　英里委員、久田　浩嗣委員、西川　昇志委員、宇谷　敏幸委員
　　廣重　久美子委員、
事務局　山下　拓志郎、奥野　隆哉、戸田　征男、長谷　慎一、福永　康彦
　　江尻　純子、松本　唯、片岡　栄二郎

１　総合教育センター所長あいさつ

今年の１月１日午後４時 10 分頃に、能登半島地震が発生した。死者数は、1 月 25 日時点で 236 人。避難者数は、１万 4000 人以上に上っている。伊丹市の小中学生の数ほどの人が、現在も避難されている。亡くなられた方々のご冥福をお祈りするとともに、避難生活を送られている皆様にお見舞い申し上げる。

今年度を振り返ると、教育においても様々なことがあった。国の動向を中心に、三点申し上げる。一つ目は６月 16 日に 2040 年以降の社会を見据えた新たな教育振興基本計画が閣議決定された。その中で二つのコンセプトとして、持続可能な社会のつくり手の育成と日本社会に根差したウェルビーイングの向上がかかげられている。この大きな方向性は、今後学習指導要領を含めた、あらゆる教育の場面に反映されていくものと考えている。

二つ目は７月４日、文部科学省から、生成 AI の利用に関する暫定的なガイドラインが示された。教育においては、国も研究段階ではあるが、今後も教育や働き方、我々の生活にも大きな影響を与え続けるものと考えている。

三つ目は、10 月 17 日、文部科学省から不登校・いじめ緊急対策パッケージが示された。これは小中学生の不登校児童生徒数が、過去最高の 29 万 9000 人になったこと、またいじめにおける重大事態の発生件数が 923 件と過去最多となったことを受けたものである。今後も専門家を含む多様な立場の方々が連携・協力して取り組んでいくべきものと考えている。

以上の三点については、総合教育センターに大きく関わりがあるものばかりである。伊丹市の教育の総合的な向上を目指す当センターにおいても、これらの最新の動向を踏まえながら、今日も学校で学んでいる子どもたちとその教育に当たられている教職員の方々を第一に考えて、各事業を進めていきたいと考えている。本日はご協議をお願いしたい。

２　会長あいさつ

先ほど所長からの話にもあったが、石川県で地震が発生した。新聞を見ると震災や政治、戦争といった内容があり、今年はいろいろな面で厳しいのではないかと思っている。

また、能登の震災の様子を見ていて、何かできることがないかという思いを持った。先週、子どもたちが、別の地域に集団で避難するということがあった。様々な形で石川県の人たちが頑張っている。私たちも何かできないかと思った。私たちは阪神淡路大震災での教訓や経験がある。それを子どもたちにもう一度、いろいろな形で伝えていくことが必要だと思った。直接の支援ができなくても、日々の教育を充実させていくことが重要である。

本日は、総合教育センターの運営協議会である。今年度のセンターの活動の総括を聞いて感想、提言をいただきたい。本年度の総括を踏まえて、次年度４月からどのようにしていくか計画を立てている。それらについて意見をいただき、その意見を４月からの運用に生かすといった趣旨である。皆様に協力いただき何かいいものを残したいと思っている。

３　議事
（１）令和５年度（２０２３年度）事業体系報告、事業別令和５年度の成果と課題について
（所長）
　令和５年度の事業体系については、第１回の運営協議会で説明している。
　令和５年度の伊丹市立総合教育センター総事業活動状況統計については、12 月 31 日時点での数値となっている。管理職研修を見ると、R４末合計 52、その横に人数 31 とあるが、この数値は違う時期の比較となっている。今年度の数値は、12 月 31 日時点、昨年度は、令和４年度末の数値である。
　研修受講者総合計は、115 回、3650 人となっている。昨年度の同時期で比較すると 12 月末で 118 回の研修があり、人数は 4340 人となっている。開催回数３回の違いは、開催時期によるものである。しかし、人数は若干減っている。
　令和６年度の伊丹市立総合教育センターの事業体系案の変更点について説明する。「Ⅰ　研修」の専門研修①の伊丹マイスター事業については、「授業・ICT を抜いた」という文言を削除している。これは、伊丹マイスター事業の見直しと改善を考えているためである。
　同じく「Ⅰ　研修」の啓発研修の④研修支援についても「アウトリーチ型校内研究支援」とあったが削除している。これについては、「Ⅰ　研修」の一番下の校内研究の活性化という欄を今回改めて新設している。学校力アップ、研究担当者会を含んだ内容となっている。これまで、この事業体系の中で明記されていなかった。しかし、当センターとして力を入れて取り組んでいることであるため新たにつけ加えた。
　五つの柱、研修、調査研究、教育の情報化、教育相談、不登校児童生徒の支援については、変更はない。

【Ⅰ　研修】
　・職務研修・一般研修
　・授業力向上（カリキュラム）支援センター事業　についての報告
【Ⅱ　調査研究】
　・研究・研修活動究の充実に向けた学校支援のあり方
　・全国学力・学習状況調査分析
　・授業におけるタブレット活用研究
　・教育支援センターにおける効果的な支援　についての報告

（会長）
　研修と調査研究について本年度の活動、現状、課題について話していただいた。さらに来年度についても話があった。その中で所長からご指摘のあった研修の人数が減っているという状況についての説明と詳しい状況について聞かせいただきたい。
（事務局）
　研修の人数の減少については、各講座の参加人数が微弱ながら減少している。カリキュラム支援センターの利用者についても減少している。我々としては、ニーズに沿った研修が開催できるよう、次年度の講師選定や開催の方法などの対応策を考えていきたい。
（会長）
　教育委員会や学校に話を伺うと、教職員の人数が減っているわけではないが、研修の人数が減ってきている。また、校内研修も下火になってきているという話を聞いている。
　いろいろな理由があると思うが、地震が発生し、政治経済が大変になっていたり、戦争が起こっていたりすることから、我々の教育もしっかりしておかないと大変なことになる。
　私なりの言い方で言うと「もう少し頑張って取り組んでいかないとだめなとき。教員が教

員としての学びを続けていかなければ次の時代の子どもたちを育成していくことはできない。その様な時代になる可能性があることは、コロナ禍で体験したはず。」である。コロナ禍でタブレットの使用やリモート授業を行なわなければならないということを経験した。学び続けなければいけない時代であるということを、お互いに理解していく必要がある。
　いろいろな課題やこれからどうしていくかについても後ほど状況を聞くが、私自身の課題意識として言わせてもらった。
　それでは、教育の情報化について報告をお願いする。

【Ⅲ　教育の情報化】
　・教育の情報化　についての報告

（会長）
　情報教育は、大きな柱となる。情報教育に対する学校への初期投入は終わり、これから安定期に入るという見方をしている。ただ、課題や技術が絶えず変化するため重要なものであるという認識である。
　教育相談と不登校児童生徒の支援の報告後、今年度の状況について、意見あるいは質問があれば聞かせていただきたい。それでは教育相談と不登校児童生徒の支援の報告をお願いする。

【Ⅳ　教育相談】
　・教育相談　についての報告
【Ⅴ　不登校児童生徒の支援】
　・不登校児童生徒の支援　についての報告

（会長）
　教育相談と不登校児童生徒の支援について何かあるか。本年度の状況について報告を聞いた。意見や質問があればお願いしたい。
（委員）
　感想になるが、「Ⅱ　調査研究」の「１．研究研修活動の支援のあり方」で、研究活動について総合教育センターが所管されてから随分状況が変わったと思っている。
　成果にもあるが、計画的に指導主事と指導員が学校を訪問していただき、他校での実践事例や研究の進め方、テーマ設定の仕方、指導案の書き方等について非常に丁寧に支援していただいている。
　また事務局からも授業の指導助言をいただくなど時間をとっていただいた。本当にありがたいと思っている。他校も同様の感想を持っていると思う。
　先日、兵庫県の学力向上シンポジウムが姫路で行われた。義務教育課による授業の分析があった。算数の問題で平行な直線の中に同じ底辺の長さの三角形があり、その面積は同じになるという問題ができていなかったということを正答率とともに分析されていた。
　次に尼崎の小学校での実践事例の報告があった。放課後に、次の日の授業の予習を行っている。それにより、次の日の授業で、手が上がるようになり、意欲が喚起されたという報告があった。最後に主体性やエージェンシーについて大学の教授の話があった。しかしながら、それらが繋がっているという感想があまり持てなかった。
　今年度から全国学力・学習状況調査の分析も、総合教育センターが所管されることになった。非常に丁寧に分析をしていただいた。校園長会でもリーフレットでわかりやすく説明していただき、時計台でも分析と授業でできることも提示していただいた。しかし、それがど

こまで個々の教員に、担当者会等で浸透しているかというと難しい。今後しっかりと繋がっていけばと思っている。
（委員）
「Ⅰ　研修」の課題改善策で、異校種間の縦の連携を踏まえた研修等を計画・実施とある。研究は学校単位で実施していると思っていた。教育センターの方にお願いすれば、小学校と中学校の連携ができるのか。
（事務局）
縦の接続は、本市の教育方針にもあるが、非常に重要だと考えている。今年度の総合教育センターの教育フォーラムの中でも、教職員に接続のきっかけの場づくりを検討している。我々が、小学校と中学校との連携について具体的な支援を行えるかどうか、今後検討が必要である。しかし、小学校や中学校、あるいは幼稚園・こども園・保育所で大事にされていることの根本は同じであることを、我々から発信を改めてさせていただく中で各校での接続の取組が、随時進んでいけばと考えている。
（委員）
前回出席できなかったため、その時に話があったらご了承いただきたい。最近は若手教員が増えていると聞いた。若手教員に向けた教育研修を設定しているのは拝見した。若手教員の育成が今後重要になってくると思うが、参加率はどれぐらいなのか。
（事務局）
初任者研修を本市でも県と連携をとりながら進めている。今年度採用された小学校、中学校、特別支援学校の対象教員を対象として実施している研修である。参加率は 100%である。事情があって当日、欠席する初任者へは、代替研修を行っているため 100%となっている。
（委員）
ライフステージ研修⑤の若手教員のためのスキルアップ講座については、５年次未満の教員は、ほぼ参加されているのか。
（事務局）
若手教員のためのスキルアップ講座は、要項に５年次未満の教員を対象とある。授業力や学級経営力を題材とした研修を行っている。管理職とその対象教員が相談の上、参加することとなる。悉皆研修ではないが、意欲を持った教員が多く参加している。
（委員）
参加したいと思っているが参加できないという人はいるのか。
（事務局）
開催時期は夏季休業中で、第２回の初任者研修との合同開催となっている。初任者の参加率は 100%である。また、各校の若手の教員が参加している。８月の上旬に実施している。
（委員）
「Ⅰ　研修」の課題改善策で、縦の連携や就学前から一体となっての取組を、重点項目として挙げていただいていることはありがたいと思っている。
今年度の研修でも、３月 14 日開催予定のセンター教育フォーラムの研修内容でも、保・幼・子ども・小・中・特・高連携のところで取り上げていただき、ぜひ学びたいと思っている。しかし、卒園式の前日の日程である。次年度は、日程も少し考慮していただけるとありがたい。今後ともよろしくお願いしたい。
（所長）
今回いろいろといきさつがあった。各校種の連携ということで、パネリストとして連携に関係する講師の方にも入っていただく。また幼児教育推進課にも依頼している。多岐にわたる調整でうまくいかず、ご迷惑をおかけしている。来年度は必ず参加しやすい時期に実施し

たいと思う。
（会長）
　報告の中で、来年度を見据えた部分についてもお話いただいた。それを踏まえて、来年度どのようにしていくのか考えを聞かせていただきたい。研修と調査研究からお願いする。

（２）令和６年度重点目標について

【Ⅰ　研修】
・職務研修・一般研修
・授業力向上（カリキュラム）支援センター事業調査研究
　の重点施策について説明
【Ⅱ　調査研究】
・研究・研修活動究の充実に向けた学校支援のあり方
・全国学力・学習状況調査分析
・授業におけるタブレット活用研究
・教育支援センターにおける効果的な支援
　の重点施策について説明

（会長）
　来年度については、次の教育の情報化、教育相談、不登校児童生徒の支援まで話を聞いた上で意見交換に入りたいと思う。次に教育の情報化についてお願いする。

【Ⅲ　教育の情報化】
・教育の情報化　の重点施策について説明
【Ⅳ　教育相談】
・教育相談　の重点施策について説明
【Ⅴ　不登校児童生徒の支援】
・不登校児童生徒の支援　の重点施策について説明

（会長）
　来年度の当センターの事業について報告いただいた。これから細かい点をさらに考えて４月にスタートとなる。委員の皆様にはご意見、質問をあわせて自由発言でご意見を賜りたい。
　教育委員会や学校を訪問したときに、生成 AI について子どもたちへの指導の問題と教職員の使用について質問している。また、行政によっては、業務に生成 AI 入れるということも考えているが、そのあたりについてはどうか。いろいろなところで聞くと教育委員会としては、様子を見ると聞くことが多いが伊丹市としてはどう考えているのか。
　私は生成 AI に、一度論文を書かせてみた。非常に上手く書いていた。チャットで対話をしていくうちに、いい論文になっていく。しかしながら、こちらの力が見透かされていると感じる。かなりのスピードで導入されてきているため、大きな課題だと思っている。
　来年度、生成 AI を使用する或いは言及するということがあれば教えていただきたい。
（所長）
　教育では、先ほど説明があった DX 推進指針の中で、生成 AI などその技術革新を使用していく方向で考えている。伊丹市では、積極的にそのような技術の使用を考えている。
　実際の動きとしては、夏休み前に保護者と子どもたち向けに案内を出した。生成 AI では、間違った情報が出ることがあるため、ファクトチェックをする、個人情報は入れないという

ことを周知した
あわせて、国の暫定的なガイドラインを示した。国の方でも研究段階でのため、今後市としても具体的に考えていくという流れである。実際に本市では、トワイライト研修で指導主事が生成 AI を扱った研修を行ったり、英語の教員が AI を活用した教材を作成したりと生成 AI を研修の題材として広めている。教員も積極的に取り入れているところであるため、今後の動向を見ていただきたいと思う。
（会長）
非常に期待できる話を聞かせていただいた。
それでは、順番に、ご意見を賜り最後に閉会の挨拶を副会長からお願いしたい。
私が伊丹市に関わりを持たせていただいて５年目になる。伊丹市の規模と総合教育センターの事業の内容やその規模が合っていると思っている。アウトリーチ研修とか校内研修で訪問する、或いは縦の接続をする、私がお願いしたことも受け止めて実行していただける。私の知っている限りでは、各指導主事が各学校へ１年間に何回か行くということは、なかなか難しい。距離感と規模感が非常に良いと思っている。
ただ一方で、研修の人数が減少しているなど、その他の課題もある。どのように伝えていくのか、どのように広報していくのかは少し課題であると思う。そのあたりについては、まだまだ改善の余地があると思っている。
（委員）
私は保護者の立場として日頃から教員に対して感謝しかない。このような研修や調査研究、また相談できる仕組みがあることも非常に感謝している。教員が悩んだときに相談できる窓口もあることもわかった。そのような形で、若手教員も守っていただける仕組みがあるのは良いことだと思った。
研修に参加したいが、どうしても参加できない教員に対して、ウェブ配信だったり、動画で拝見できたりという仕組みがあると喜ばれる方もいるのではないかと個人的には思った。
（委員）
先ほども少し触れさせていただいたが、幼児期からの縦の学びの繋がりを意識した研修とか、時計台で縦の連携での学びを図式化して配信していただいている。様々な形で学びが繋がっていることを周知していただいている。私たち、幼児期で勤めるものも学び続けないといけないと思っている。
今年度、トップリーダーグループ研修で、本園の教頭も学ばせていただいている。幼稚園では、今年度から各園へ教頭が配置されている。人材育成の観点でも、総合教育センターの力をお借りして、研修に参加させていただけるということは、とても大きなことだと思っている。今後も繋がることができるところは繋がり、参加させていただき、学び続けることができればと思っている。今後ともよろしくお願いしたい。
（委員）
会の冒頭に所長からも会長からも、震災の話があった。各学校で、１月 17 日に避難訓練を実施した。しかしながら、本校では学校現場で教員として震災を体験したという担任は、1人だけである。
担任をしている教員のうち４人は、生まれていないと言っていた。そのため、本校では子どもたちに震災の指導するにあたって、震災を経験した教員が「学校でこういうことが起きていた」という話を教職員に対して行った。そのような形で子どもたちに何とか伝えていこうとしている。総合教育センターでも 20 年くらい前には、安全教育という研修で、EARTH の推進委員を呼んで話を聞くというものがあった。しかし、風化していっている。教員の技術や伝承する必要があるものは、継続していかなければいけないと思った。
（委員）

今年度から教頭という立場になりいろいろな形で、総合教育センターの方々に支えられていると改めて感じている。職員と話をしていて、行きたいと思う研修はいろいろあるが、やはり時間のことを考えると、二の足踏んでしまうことが多い。そういう意味で、コロナ禍にオンラインでの研修があったのは良かったという話題が出ていた。

今、参加型の研修が増えてきているが、いろいろな形態で開催していただけると参加しやすくなると思った。伊丹マイスター研修についても、興味深いものが多く開催されている。現場での学びや取り組みを知る機会があることは非常に良いと思う。しかしながら、なかなか参加するのが難しい。伊丹マイスター研修のために、一生懸命準備や実践をされているにも関わらず、その方々の学びが私達に伝わってくることが少ないことが残念である。

幼小中の接続については、何を軸にして接続していったらいいのかが難しいと感じている。接続と言われているが、まだ取り組むことができていないのが現状である。

また今度の３月に実施される会も気になっている。接続がどのようなものか、どのようにすればいいかなど教えていただける機会があればありがたいと思う。

（委員）

これだけたくさんの事業があり大変だと思う。先ほどから話がある研修の受講者の減少は寂しいと思っている。しかしながら、難しい時代に入ってきていると思う。今年８月に特別支援教育研修が開催されたが、その時の受講者の年代がどうだったのか気になっている。その年代を分析することで、次の何か手が打てるのではないかと思った。

（委員）

私も最近、連携について学びたいと思っている。体育科の教員として、発達段階について非常に気になっている。中１ギャップや集団にうまく適さない子が増えてきているという実感がある。幼児期での発達段階や、小学校での発達段階などについて知ることができたらと思った。

私は、伊丹に勤務して 10 年目となるが、様々なコンテンツの提供があることを知らなかった。総合教育センターで、いろいろな取組が行われていることがわかった。そのような総合教育センターの取組の紹介を、初任者研修等でしていただけたら助かる教員がいると思った。

（委員）

私は、総合教育センターを所掌している立場のため、今日いただいた意見をありがたいと思う。研修の人数については、私たちがアピールしていかないといけないところもある。質の部分でも、興味やニーズ、社会の変化をきちっと踏まえた上で進めていくことが大事である。また、不登校対応についても、総合教育センターの役割がより大きく、より充実するために、縦割りではない繋がりを来年度構築していきたいと思っている。

（委員）

私は、行政の管理部門であるため、よりよい環境整備が使命だと思っている。その中で、来年度に向けて子ども、保護者の皆さんが使いやすい ICT 環境の整備、教員の働き方改革が喫緊の課題だと思っている。校務の情報化に向けて、今現在策定中の教育 DX 推進指針の実現に向けた体制整備や環境整備に、来年度以降重点的に取り組んで参りたいと考えている。

（副会長）

様々なご意見、ご要望、ご質問をいただいた。それを総合教育センターで生かしていただきたいと思う。

様々なことを一つのセンターで実施していると改めて感じている。免許更新制度がなくなり、資質向上の部分も担っていかなければいけない。研修の参加人数が減少したとあったが、一つの要因として非常に忙しくなっているというのはあると思う。調査研究も学力調査も行っており、調査研究を踏まえた研修も企画されている。

　そして教育の情報化の中で、タブレットの使用をどう深めていくのかも難しいと思っている。子どもたちは、タブレットの使用を含めたグローバルな社会に対応していく必要がある。そのようなことも含めて事業を進めていただきたい。
　また教育相談も緻密にされている。不登校対応についても、この国の喫緊の課題となっている。中学校現場は、教育支援センター「やまびこ」があることで非常に助かっている。近隣には学びの多様化学校ができるなど、新たなことが導入されてきている。このような教育現場の課題をすべて総括して研究されているため、今日いただいたいろいろなご意見等を参考にして、来年度さらに発展していただけたらと思う。